

令和元年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名称	SSRB Chemistry experiments in English	
期日	令和2年1月23日(木) 1限、2限にて実施	
会場	長岡高校 化学実験室	
対象	2年生理数科2クラス	
目的	ALTによる英語での実践的な指導を経験する。 このことで、科学研究において必要である英語の学習意欲を高めるとともに教科の枠を超えた学びを体験する。	
内容	ALTのペイトン先生が化学実験の指導を英語で実施した。 英語の実験プリント、パソコンのソフトも英語バージョンで行った。 ALTが実験目的と方法、注意点をわかりやすい英語で説明した。 生徒は温度センサとパソコンを用いて温度変化のグラフを描き、反応熱を求めた。	
		
	ペイトン先生机間巡視しています。 器具の操作を説明するマツト先生。	温度センサーでデータを取り込む ソフトも英語バージョンです。
アンケート 評価	授業後のアンケート結果を集計すると、 (1) 英語での実験を行うということを聞いてどのように感じていましたか。 よく分かった 【23%】 少し分かった 【55%】 あまりよく分からなかった 【22%】 まったく分からなかった 【0%】 (2) 自分の英語を使う能力が、向上したと感じましたか？ 向上した 【44%】 やや向上した 【55%】 変化なし 【1%】	

1年次に英語で実験。2年次は生物実験を7月に行っている  
ので、成長を実感した生徒が多かったようです。

Q 今回の経験で、自分の英語学習の意欲は、変化しましたか？

向上した 【13%】 やや向上した 【43%】  
変化なし 【44%】 やや低下した・低下した【0%】

60%近くの生徒が、この体験は英語の学習意欲を向上させる  
と言っています。3回目なので若干の慣れもあるかもしれません。

感想  
など

- ・英語での専門用語は難しかったけれど、実験は楽しかった。
- ・英語の説明が意外と分かった。
- ・実験自体の難しさもそこまでではなく、英語も分かりやすいものがつかわれていて、おもったよりできた。
- ・英語ができないことに憤りを感じた。
- ・楽しい実験でした。人生において良い経験になった。
- ・時々分からなくて慌てた時があったが、先生に質問して作業がうまくいけたと思う。
- ・授業内容を理解して臨むとさらに理解が深まるので、定期的にやって欲しいと感じた。
- ・実験に失敗して十分に考察することができず残念だった。自分がパニックになっている間、他の班の人が冷静に次の実験準備をしていてすごいと思ったし、自分のことを恥ずかしく思った。実験内容を英語で理解できて良かった。
- ・1年生時は英語の実験が全然分からず、すごく嫌だった。今回は目的ややり方などがわかり楽しかった。
- ・去年よりも多くの言葉が分かるので、読むのも先生が言ったことを理解することも早くなり、学習の成果を感じた。
- ・英語の指示を理解できなかったのが悔しかったです。